

多摩地区5大学共通講座として、国際標準化(ルール形成づくり)を学ぶと題した集中講義が行われました。METI 主導「標準化官民戦略会議」における標準化人材育成 WG 活動の一環として、一橋大学 江藤 学 教授が主体となった面期的講義ということもあり、特別に聴講させて頂きました。

日時：2018年9月5～7日 13:00～18:00 (講座全体は9/3～7の5日間)

場所：東京農工大学 小金井キャンパス 講義棟 L0011 教室

参加：多摩地区5大学学生中心 参加者 100名強

聴講：JSA 小綿, 千葉, 石津, 天野, 大山, 大竹

No. 8 電機・電子産業の標準化：(社)日本電機工業会 大隅 慶明 先生

JEMA 標準化推進センター 大隅センター長より、電機・電子業界の標準化の紹介があった。学生に馴染みの薄い電機業界の標準化であるが、スマホや amazon ドローン配達等を事例に学生にも判りやすい解説であった。特に、強調していたのは IoT 分野で日本がルールメカになる重要性。元 Panasonic の立場と現在の標準化推進団体としての立場と織り交ぜながら、Web-API 含めたプラットフォーム分野の標準化に積極的に関与、参加する必要性を学生に説いていた。先を見抜いた戦略企画力を磨くこと、グローバル視野をもち主張することの期待があった。【各国の IoT 政略:大隅】



No. 11 自動車分野の標準化：(社)日本工学会, 横河電機(株) 高木 真人 先生

日本工学会(横河電機) 高木様(APC 元幹事)より、自動車分野の標準化に関する講義があった。主に、電気自動車(EV), 燃料電池自動車(FCV)等の普及課題及び自動運転(自動走行)をテーマとし、国際標準化が自動車分野の発展にどのように関連するのかということに対し、判りやすい解説があった。Li イオン電池試験方法標準化における日独の戦略の違い、自動運転標準化に関する問題点等、具体的で大変参考になった。標準作業者(標準専門家)と標準戦略家(Asset 人材)が上手く噛み合い、理解してプロジェクトを進めることが重要であるとのこと。【Li ion 日独差:高木】



No. 7 通信の標準化：(株)NTT ドコモ 先進技術研究所 奥村 幸彦 先生

NTT docomo 奥村様より、移動通信システムの国際化と題し、国際標準策定と国際連携に関する講義があった。まず、無線通信標準化における、通信プロトコルとネットワークインタフェースの重要性の説明があった。具体的には、次世代移動通信システム 5G をテーマに、サービス・アプリケーション(ユースケース)及び 研究開発の状況等の紹介があり、5G 技術の実現化は間近に迫っているという印象を受けた。学生の興味を引くよう、コネクティッドカーや鉄道車両走行通信での実証実験等の様子を Video 上映する等の工夫を凝らしていた。小職からは docomo が通信標準化に積極参加する理由を尋ねたところ、各ユースケースを早期にアピールすることにより、海外事業展開に有利に働くことを挙げられており、参考になった。

電気・電子・情報・自動車といった国際標準化と馴染みのある分野だけでなく、農業・バイオ・化学・環境さらには外交(国際交渉)・教育(国民教育)・ビジネスといった分野における標準化に関する講義があった。

No. 9, 10, 12, 13, 14 農業・環境(バイオ・化学)・国際交渉・外交・教育の標準化・戦略

他分野として、農業・環境・外交・教育等分野での標準化に関する講義があった。

①環境分野 ISO TC146(大気), 147(水質), 207, ISO14034 (環境マネジメント)

②農業分野 GAP(Good Agricultural Practice) 持続可能な農畜水産業標準
安全性や品質に関するものではなく、事業持続可能性 (ISMS のイメージ?)

③外交分野 TPP, EPA(経済連携協定) 日本の FTA 戦略の重要性

④教育分野 PISA(初等中等教育における学習到達度調査) 国際通用性評価

等他分野においても国際標準に基づく評価・資格取得は重要な戦略となっている。【水質計測事例:大野】



最後に、この講座を主催している 江藤 教授より まとめと題した、講義が行われた。

No. 15 規制と標準化・イノベーション:一橋大学 江藤 学 教授

一橋大学 江藤教授より、講座のまとめとして規制と標準化・イノベーションに関する講義があった。技術普及に関しては、技術イノベーションだけでなく規制と標準化をどう利用するかが大事で、自転車部品(シマノ)、電動自転車(ヤマハ)、理髪店(QB HOUSE)等の成功事例を基に、法規制と市場創出の問題、業界標準の問題等を判りやすく解説していた。最後に、ご自身が国際交渉にあたったときの現場経験を基に、欧米人に対する意思疎通のはかり方、若い学生に必要な素養に関する経験談があり、国際化舞台へ積極参加すべくエールで締めくくられた。【電動アシスト自転車:江藤】



この講座は毎年 各大学持ち回りで開催されている模様。今年のテーマは「ルールに縛られるか ルールを作るか」ということで、日本の経済成長のためには(他国に先行した)国際標準化(ルール形成)が重要であるという講座内容でした。若い学生に関心をもって頂ける内容だったと思います。

今後も、国際標準化に関する講座の紹介等を行っていく予定です。では、またお会いしましょう。

